

まちづくりの目標や方針を示すマスタープラン策定へ

都市計画関係ですが、まちづくりや土地利用の基本的な考え方、道路、公園などの都市施設の整備方針を明らかにし、具体的な都市計画を定めるときの指針となる人吉市都市計画マスタープランについて、都市計画審議会の委員の皆さまに、取りまとめのため意見を頂きました。本計画は、市民生活の基本となる基盤施設の復旧整備を行いながら、安心して永遠に住み続けられるまち、にぎわいあふれるまち、自然環境が豊かで歴史と文化が息づくまちの創造に向け、都市づくりを推進していく予定です。

また、都市全体の構造を見渡しながら、居住機能や医療・福祉・商業など都市機能の誘導により、コンパクトなまちづくりを目指す指針となり、都市計画マスタープランの一部となる人吉市立地適正化計画についても、令和5年度の策定を予定しています。

組織別

復興建設部関連



高橋酒造が計画するウイスキー蒸留施設の完成イメージ

DMO登録目指す
観光地域づくり協議会

広域観光に関する取り組みですが、人吉球磨観光地域づくり協議会は、令和3年6月的一般社団法人への移行後、さらなる広域観光への取り組み強化のため、候補DMO（観光地域づくり候補法人）への申請を行っていて、昨年3月に国から認定登録を受けています。今後は、地域連携DMO（観光地域づくり法人）の3年以内の登録を目指し、人吉球磨地域が一体となって取り組みを進めていきます。

企業進出による仕事や雇用の
創出に期待

企業誘致関係ですが、令和3年1月には、本市に本社を置く高橋酒造株式会社と旧田野小学校跡地等の利活用に関する覚書を締結しました。今年1月には、旧田野小学校の校舎や体育館を活用し、ウイスキー製造施設や見学施設などの地域交流施設の整備計画について発表されています。昨年6月には、上益城郡山都町に本社を置くヒノキ専門の製材業、株式会社ランバーやまとと、人吉中核工業用地



人吉中核工業用地に初の進出となる株式会社ランバーやまと

への進出に関する協定を締結しました。ヒノキを活用した本地域産材のブランド化や新産業創出などの波及効果、そして新たな雇用の場の創出も見込まれることから、本地域の林業全体の振興にも大きく貢献されることを望みます。さらに東京や大阪のIT企業の進出についても協定を締結していて、本地域での仕事の創出、雇用の創出につながっていくことを期待します。

「くまりば」拠点に
人や企業集まる

人吉市まち・ひと・しごと総合交流館「くまりば」は平成30年7月にプレオープンし、令和元年7月には、1階にコワーキングスペースを開設しています。令和2年3月には、1階に会議室、2階にサテライトオフィスやシェアオフィスを整備しています。同年7月に発生した豪雨災害では施設が被災しましたが、多数の災害ボランティアの皆さまに復旧作業などに協力いただき、発災から7カ月後の



くまりばのコワーキングスペース「osoto Hitoyoshi」

令和3年2月には再開を果たしました。

再開後は、工事を中断していたレンタルキッチンや簡易宿泊施設の整備も完了。また、サテライトオフィスは4部屋全てに入居いただき、シェアオフィスも6ブースが埋まるなど、順調に利用いただいています。このように、人が人を呼び、企業が企業を呼ぶ好循環が生まれていますので、復活の要望が多い温泉の復旧と併せて、地域に元氣と活力を与える施設となることを期待します。

専用サイトやイベントで
本市への移住定住をPR

移住定住関係ですが、専用ポータルサイト「人よしライフ」を活用し、本市への移住定住に関する情報提供を継続的に行っています。令和4年度は、東京や福岡などの都市圏で開催された移住関連イベントやオンラインの移住マッチングイベントに参加し、移住定住に関心がある人へのPRを行うなど積極的に活動を行いました。

スマートインター開通で
多くの波及効果

九州縦貫自動車道の人吉球磨地域の新たな玄関口として、令和元年8月に開通した人吉球磨スマートインターチェンジですが、本地域にもたらす波及効果は大きく、交通人口の増加に加え、物流の変化などに伴う経済の好循環にもつながっています。併せて、本市の農免道路など外環状の交通渋滞の緩和など、地域間交通の利便性向上にも役立っています。



人吉球磨スマートIC開通でアクセスが便利に

の運行や外国にルーツを持つ児童生徒への日本語支援など、子どもたちにとってより豊かな教育環境のため、できる限りの支援策を実施しました。

併せて、国のGIGAスクール構想に伴い、小学3年生以上の児童・生徒と教職員を対象に1人に1台のタブレット端末を配備し、電子黒板も1学級に1台ずつ設置するよう整備を進めました。

組織別

教育部関連

豊かな教育環境に向けた学校教育の新たな取り組み

学校教育関係ですが、新たな取り組みとして、中学3年生の英語検定料に対する補助をはじめ、スクールタクシー

子ども議会を開催については、コロナ禍や豪雨災害の影響で中止した令和2年度を除き、毎年度開催することができました。子ども議員からは、「ふるさと人吉」をもっと良くしたいという思いによる建設的な意見が相次ぎ、そのよ

うな子どもたちの姿が大変うれしく、また頼もしく感じました。

子育て世帯の負担軽減のため
給食費を助成

学校給食関係ですが、平成28年度から開始した学校給食費の一部助成は、子育て世帯の負担軽減のため、小中学生を対象に1カ月当たり約千円の助成を行ってきました。コロナ禍や世界情勢の変動などによる物価高騰対策についても、保護者の負担を軽減するため、食料費への助成なども実施したところです。

給付型奨学金制度を創設

人吉市奨学金制度ですが、これまでの貸与型奨学金制度に加え、令和3年度、新たに



小学4～6年生を対象に開く「モリスポ」

給付型奨学金制度を創設しました。2年目となる令和4年度は、令和5年度に高校や大学などに進学を予定している生徒7人を給付型奨学生として、4人を貸与型奨学生として内定しています。

小学校運動部活動は
社会体育へ移行

平成31年4月から、熊本市を除く県内全ての市町村で小中学校の運動部活動が廃止となりました。このことを受け、本市としても、令和元年度から市内小学校の4年生以上の児童に対し、特定の競技種目に限定しない総合的な運動の場を提供しています。

令和4年度は活動の愛称を「モリスポ」と決定し、市PTA連絡協議会の協力で体験会などを実施したこと、参加児童も増加しています。

施政方針の全文は市ホームページからご覧いただけます。



▲市ホームページ